

佐賀関大規模火災における 大分DWATの活動

(ピンクの人／ピンクちゃん)



社会福祉法人 大分県社会福祉協議会
ボランティア・市民活動センター
主任 森 美菜子

大分DWATについて

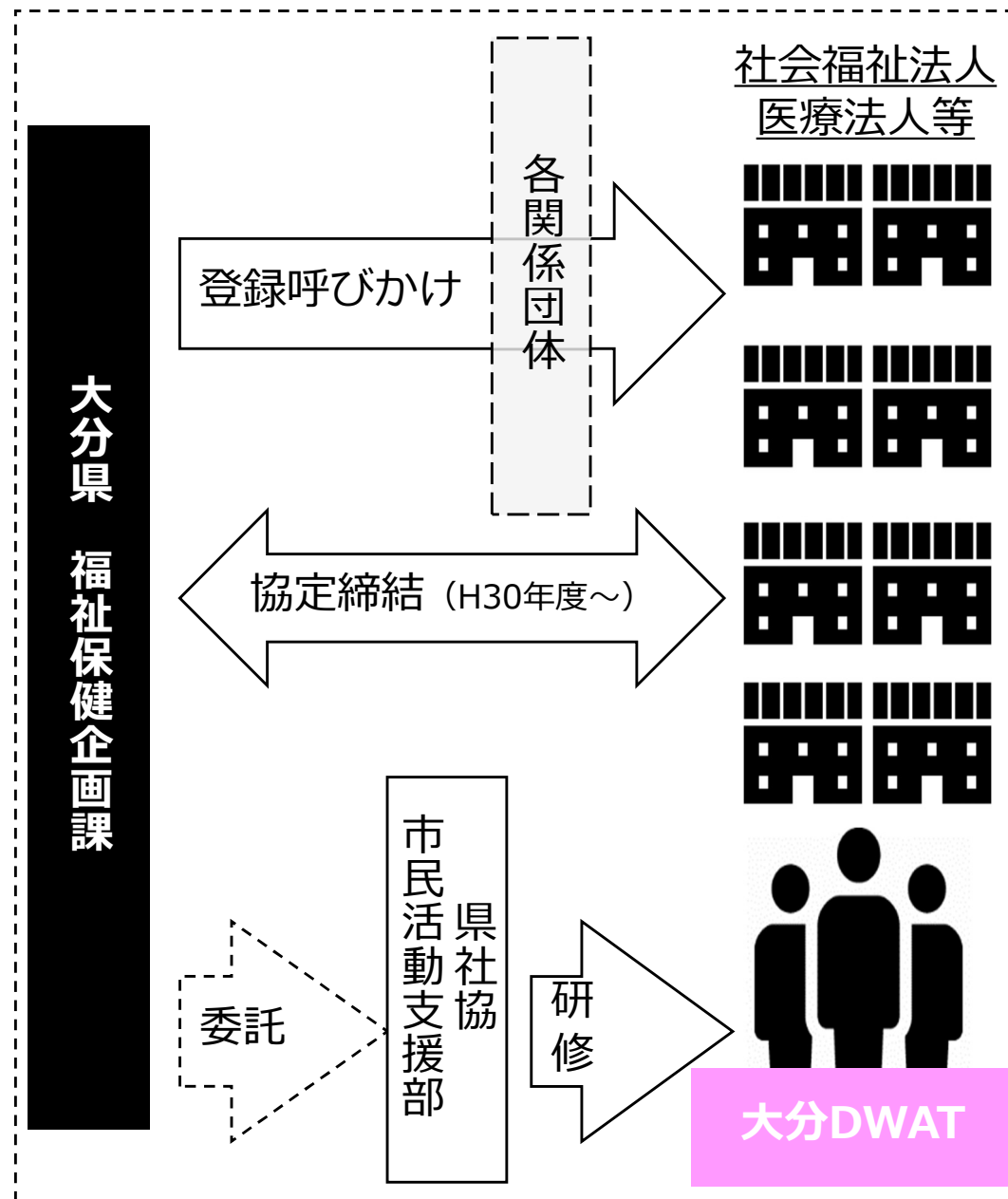
大規模災害発生時に、被災地の一般避難所や福祉避難所、在宅や車中泊で避難している要配慮者に対し、福祉的な配慮や支援を行う福祉の専門職チーム。

<構成メンバー>

- ・介護福祉士 ・社会福祉士
- ・精神保健福祉士 ・介護支援専門員
- ・相談支援専門員 ・看護師
- ・理学療法士 等

<活動内容>

- ・避難所の環境改善
- ・要配慮者の支援ニーズ把握と対応
- ・福祉避難所の運営支援
- ・車中泊や在宅避難者への支援 等



大分DWATについて

- H30年に発足
- 県と協定を結んだ法人に属する職員が登録可能 ※個人登録はなし
- 54法人278人がチーム員として登録
- R5年豪雨災害(日田市)、R6年能登半島地震(珠洲市)への派遣経験あり

研修体系

基礎研修(登録研修)

主に新規登録者を対象とした基礎を学ぶ研修

スキルアップ研修

基礎研修受講済みのチーム員を対象に、さらなる資質向上を目指す研修

フォローアップ研修

体験型研修や事例検討など、実践を視野に入れた研修

派遣想定訓練

総合防災訓練等を活用したアセスメント訓練等

DWAT登録人数(九州上位6位)

福岡県	345人
大分県	278人
佐賀県	170人
沖縄県	157人
鹿児島県	152人
熊本県	122人



佐賀関大規模火災について

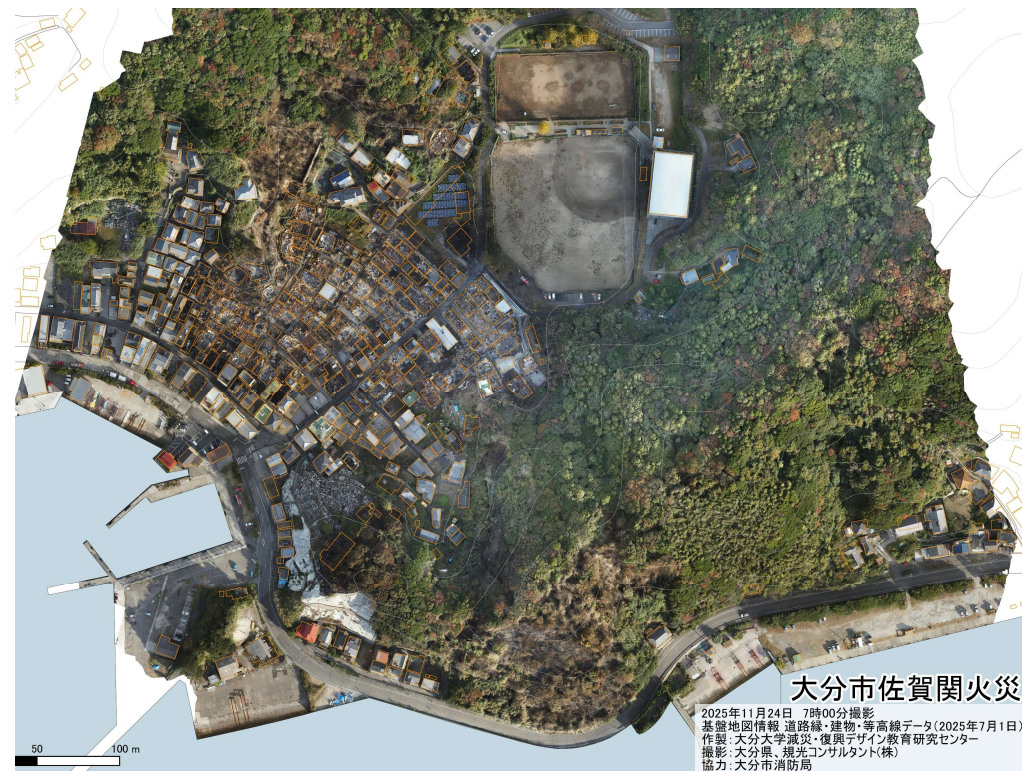
発災日	令和7年11月18日(火)
被災地区	神山、田中1区、田中2区、田中3区
焼損棟数	194棟
罹災世帯	約130世帯 ※うち全壊94世帯
避難者数	最大避難者数121世帯、180人(11/18)

避難生活の 長期化

- ・ 全焼世帯が多い(家がない)
- ・ 鎮火の見通しが立たない
- ・ 地域移行のあり方検討必須

要配慮者の 存在多数

- ・ 高齢者が多い(70～80代)
- ・ 障がい者も数名避難
(知的・精神・身体)
- ・ 感染症拡大の懸念



災害関連死の危険性

DWAT含めた
保健医療福祉支援の必要性高

DWAT派遣の概要

先遣隊

11/19～20

2日間
延べ3名

本派遣

11/21～12/23
34日間

※12/21は活動休止
のため実際は33日間

人 数

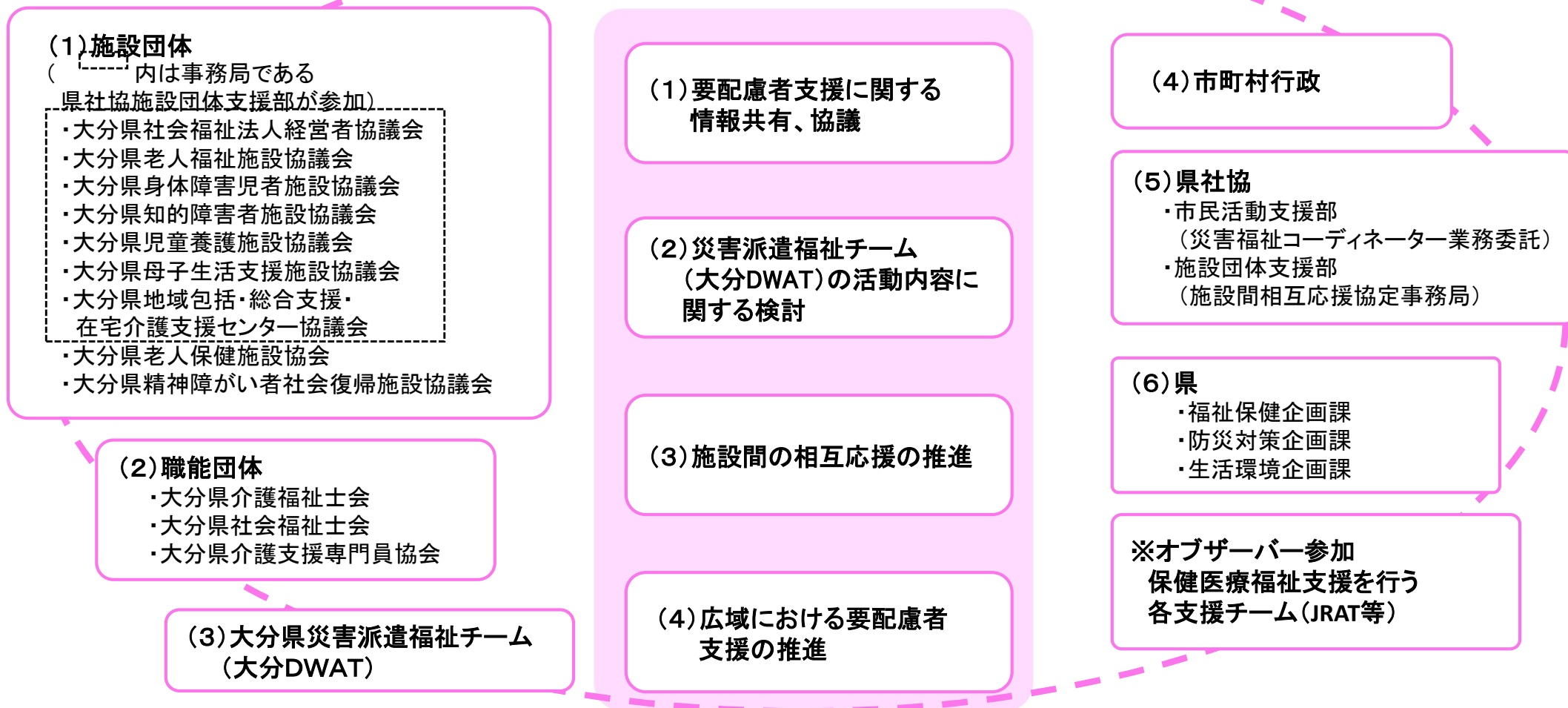
延べ150名
+県社協12名

23法人54名
※県社協込みの場合
24法人61名

保健医療福祉チーム一覧

保健師	保健医療福祉チームの統括 健康観察 感染症対応・対策
JMAT	医療ニーズ対応(回診等) 感染症対策 ロジスティクス支援
災害支援Ns	夜間医療ニーズ対応 感染者対応・対策
薬剤師会	モバイルファーマシーを活用した一般薬投与 感染症対策 お薬相談・受診相談
JRAT	血栓症リスク対応 通いの場支援(リハビリ体操等) 転落・転倒防止に向けた環境改善
JDAT	口腔衛生指導 歯科ニーズ対応
DWAT	福祉ニーズ対応(認知症、障がい者対応等) 環境改善 福祉サービスへのつなぎ

災害福祉支援ネットワーク(R3. 2～)



災害時の要配慮者支援を円滑に行うため、平時から関係団体間の情報共有・意見交換の場として設置。避難所で活動する保健医療福祉チームにもオブザーバー参加を呼び掛け、顔の見える関係を構築。

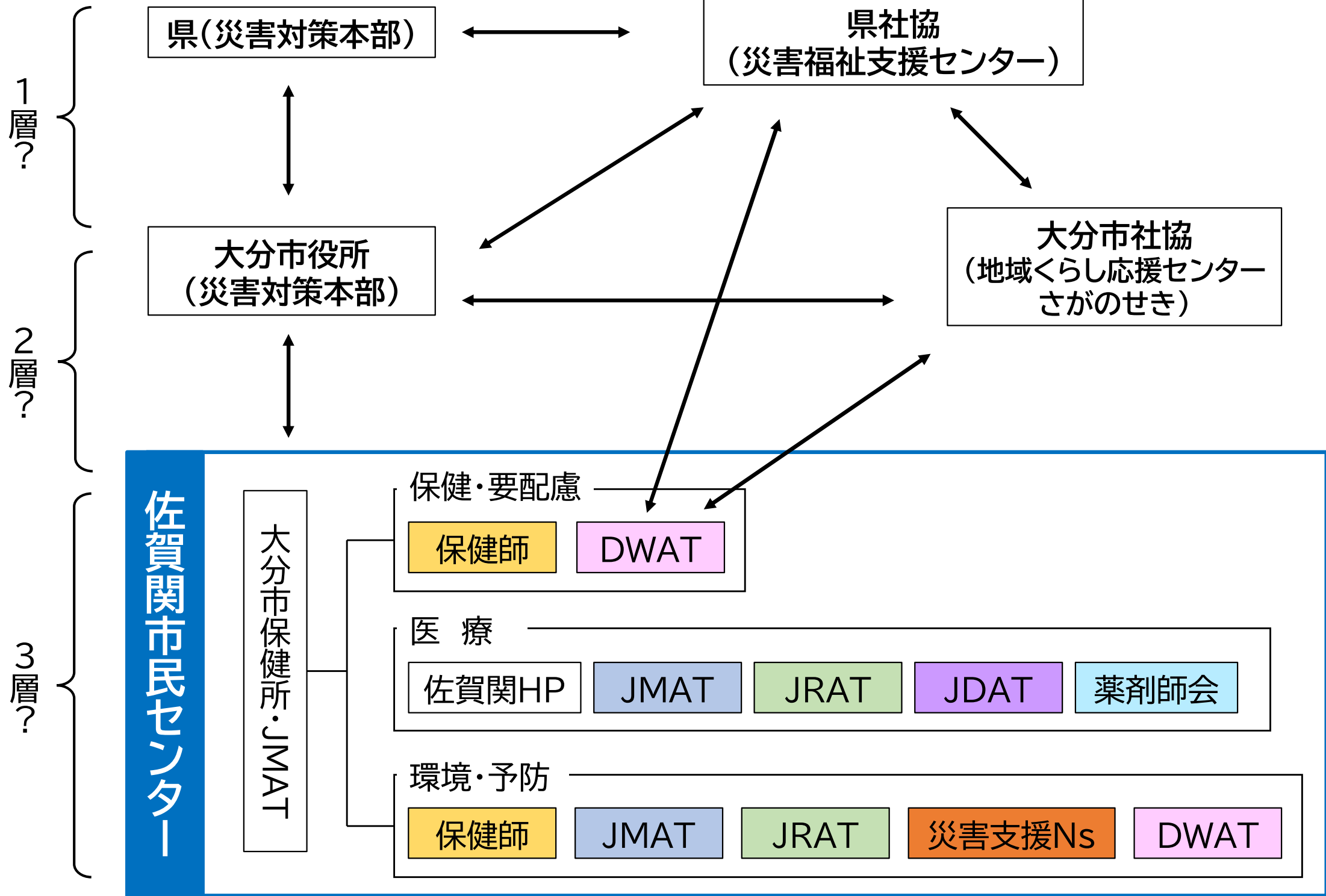
<オブザーバー参加団体一覧>

JRAT(日本災害リハビリテーション支援協会) **DMAT**(災害派遣医療チーム) **DPAT**(災害派遣精神医療チーム)
JDAT(災害歯科支援チーム) **VMAT**(災害獣医療支援チーム) **JDA-DAT**(栄養士会災害支援チーム)
大分県薬剤師会 **JMAT**(日本医師会災害医療チーム)

対応時系列(概要版)

日時	内容	その他
11/18(火)	災害発生 情報共有・収集開始(市社協、県、市役所、県社協) 最大避難者数121世帯180名 避難所開設 災害救助法担当職員(県)に連絡し、救助法適用の打診を続ける → 3:00救助法適用	
11/19(水)	午前:大分市社協訪問 午後:避難所へ「 DWAT先遣隊 」として訪問し、 DWAT派遣について協議(プッシュ1回目) 派遣可能性についてチーム員に情報提供開始	
11/20(木)	先遣隊として事務局1名+チーム員1名派遣 再度DWAT派遣について協議(プッシュ2回目) →避難所情報共有会議にて「派遣をお願いしたい」 派遣調整開始(1クール4日間5名程度)	
11/21(金)	1クール派遣開始 保健医療福祉チームミーティング実施	
11/22(土)	他チームと協働でラウンド開始 救世主来県	近隣社福法人による 入浴支援開始
11/24(月)	DHEAT派遣を県に相談 → 翌日から保健所リエゾンが配置	インフルエンザ感染拡大 第1回住民説明会
11/26(水)	DWAT「 なんでも相談窓口 」設置	別府温泉支援開始 ※県社協ぶっ倒れ始める

11/27(木)	被災者支援に関する勉強会 開催	市社協へ県社協リエゾン派遣開始
11/28(金)	鎮火宣言 一部規制解除にて一時帰宅可能に →避難者数が減少(25世帯32名退所)	ランドリーカー配置
12/1(月)	大分市社協災害ボランティアセンター設置宣言	
12/2(火)	保健医療福祉ケース会議	第2回住民説明会
12/4(木)	保健医療福祉コアミーティング	別府温泉支援終了
12/5(金)	県薬剤師会支援終了	
12/7(日)	JMAT支援終了	
12/12(金)	保健医療福祉チーム、市社協情報共有会議 JRAT活動終了	市営住宅一次当選者 鍵渡し開始
12/19(金)	居宅介護支援事業所、保健師へ、 要配慮者対応の引継ぎ	市営住宅二次当選者 鍵渡し開始
12/21(日)	DWAT派遣お休み(応募無しのため)	第3回住民説明会
12/23(火)	DWAT活動最終日	
12/26(金)	避難所閉鎖	



環境整備



アセスメント



生活改善



余暇活動支援



他の支援者との連携



保健医療福祉チームの連携

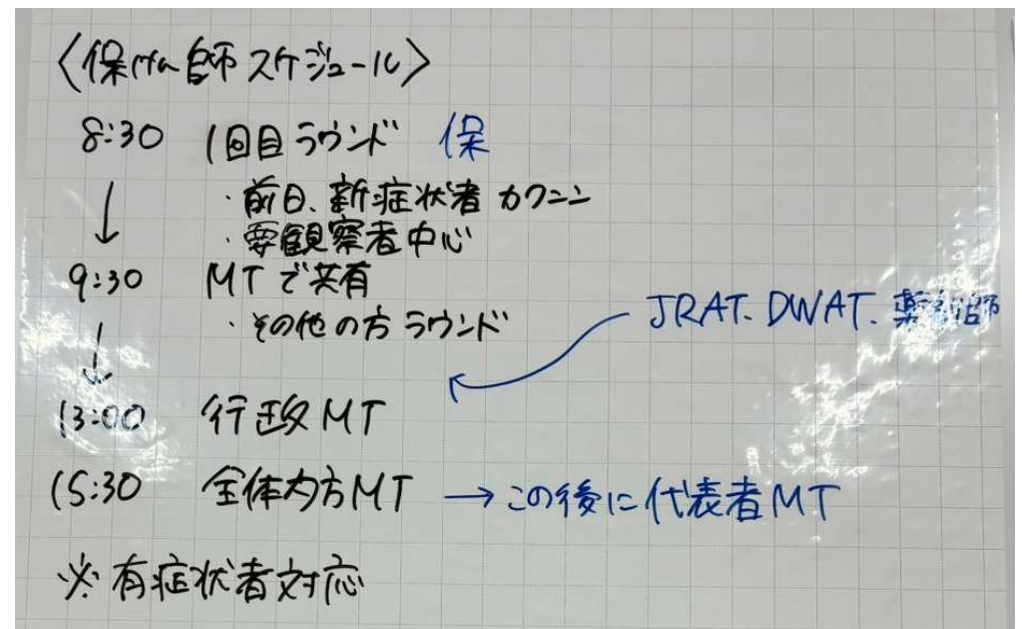
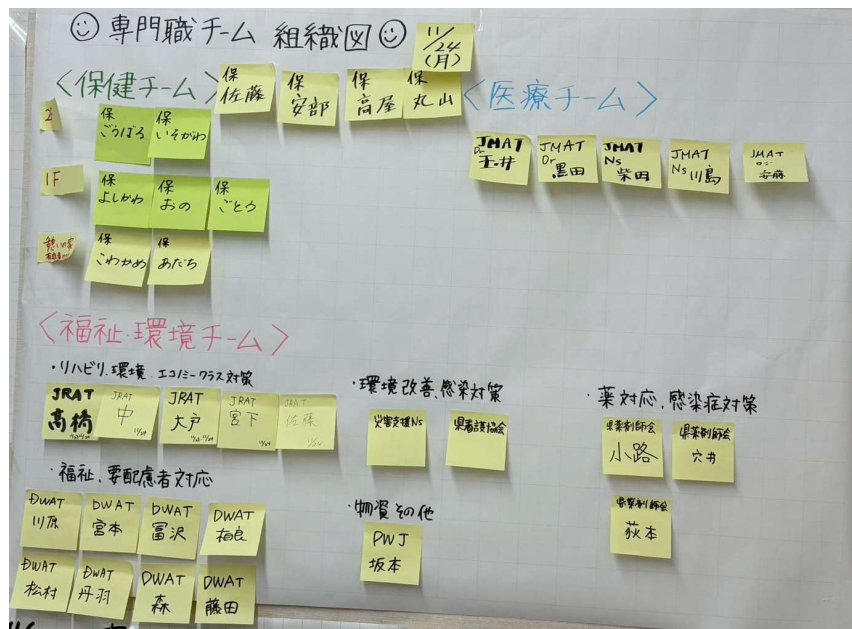
Action1 専門職チームMTGの実施

<課題>

- ・ 保健医療福祉チームが多数介入
- ・ それらのチームを統括する役割が不在
- ・ アセスメントの重複が発生
- ・ 各チームがバラバラに活動し、連携ができていない

<内容>

- ・ 各チームの役割、活動を共有
- ・ 保健師の動きを確認し、ラウンドの時間や共同ラウンドの確認
- ・ 毎日の情報共有の時間を設定
- ・ 横の連携を意識できるように、組織図を作成、掲示



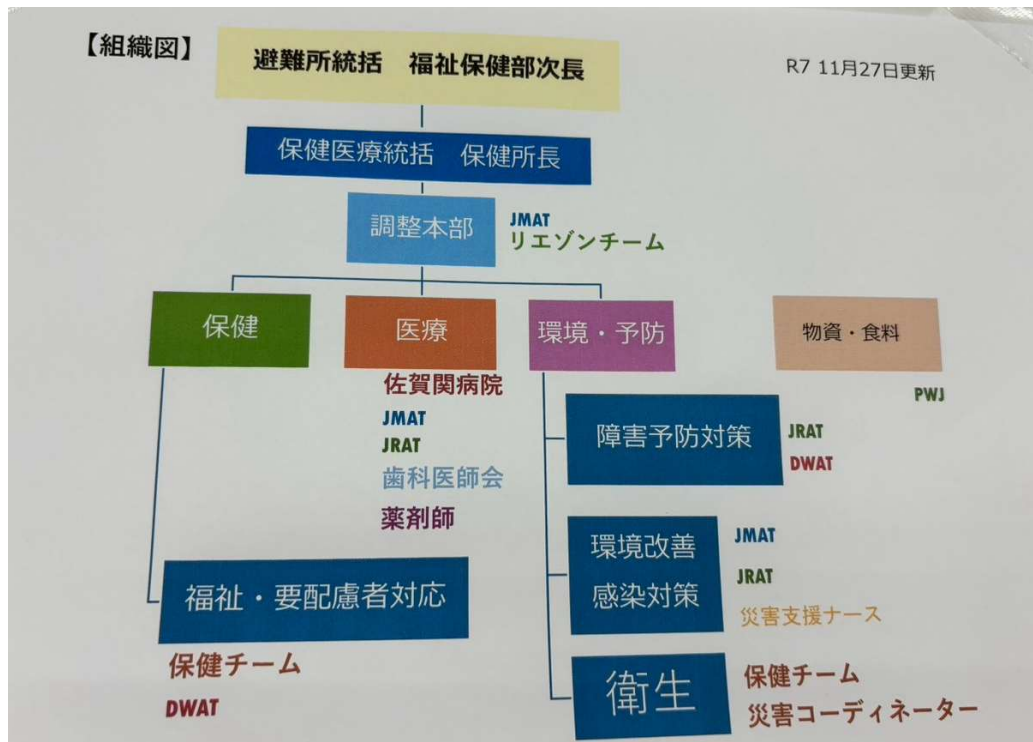
Action2 DHEAT派遣打診

<課題その2>

- 各チーム毎日人が入れ替わるため、MTGで話した内容が引き継がれていない
- せっかくなたくさんの専門職がいるのに、専門性が活かされない状況に。

<内容>

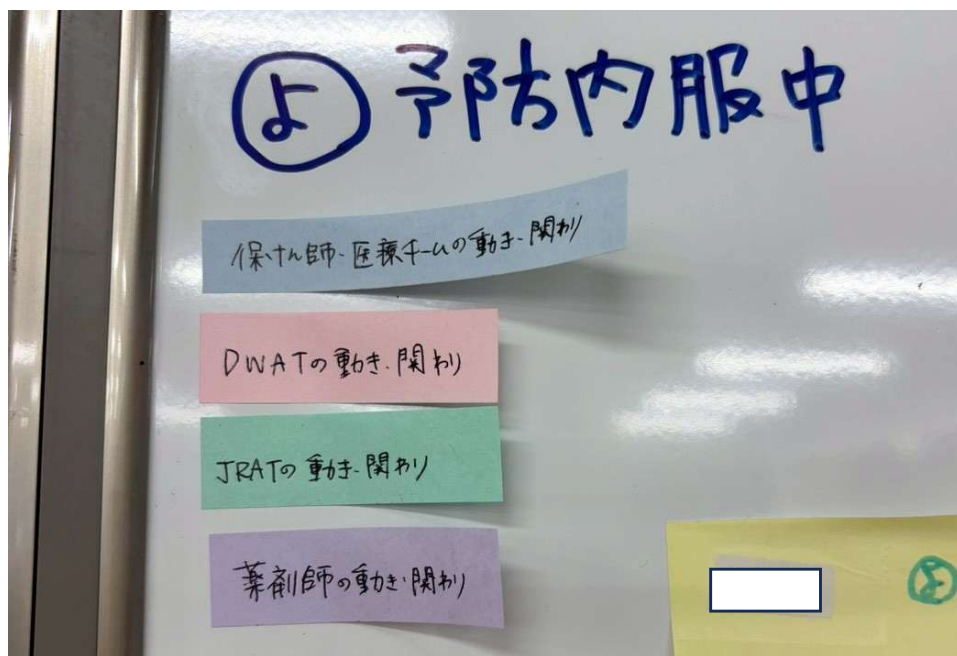
- DWATの立場で保健医療福祉チームの統括は限界がある(県社協としても同じ)
- 現状を県防災局へ伝え、対応を依頼。
- 翌日から大分市保健所リエゾンが派遣、配置。
- 毎日朝と夕方の2回、医療MTGが実施され活動調整と情報共有が行われるようになった。



情報共有の方法

ホワイトボードの活用

- ・ 避難者の居住場所を把握
- ・ 避難者テントを黄色の付箋で表示
- ・ 支援チームの介入があれば、チーム別に色分けされた付箋(小)に介入内容を記載し添付
- ・ 付箋が多くついている避難者＝要配慮者としてすぐ分かるように



ホワイトボードの記載方法をルール化し、毎日更新

キントーンの活用 ※課題あり

- ・ キントーンに構築された「避難所支援アプリ」を活用
- ・ JRATとDWATが介入記録を入力
- ・ 入力した内容を、地元保健師や地元ケアマネージャー、市社協に共有

※保健師が使っているシステムとは連動できず。
(市のセキュリティの関係)



付箋がカラフルな人＝多くのチームが関わっている要配慮者



災害発生

大分市社協との連携

- 市社協が作成したチラシ(右)を、避難所内に設置。
- 合わせて、支援者(DWAT等)にも共有し、ニーズが上がってきたら市社協へつなぐ。
- 避難所で活動する支援者にも、災ボラや支え合いセンターの役割を知ってもらうことで、「避難所から地域生活」への移行を視野に入れた支援が実施された。



<連携の内容>

- 避難所状況の共有(ほぼ毎日)
- 生活支援ニーズのつなぎ
- 避難所情報共有会議への参加
- 医療ミーティングへの参加
- 避難所退所後のフォロー

普段の業務やスキルを活かして



訪問看護師です。

第1クールはまだ情報が錯そうしていたので、**保健師との情報共有**を第一に動きました。

各チームの役割が明確ではない中、DWATの仕事ではないけれど誰かがやらなければいけないこと(ゴミ捨て、清掃、トイレ掃除等)は積極的に取り組み、**DWATの存在を住民に知ってもらう**ことも意識しました。

「ピンクの人に言ったら何とかしてもらえる」と住民の方から頼ってもらえた時は、うれしかったです。

障がい者施設で相談員をしています。

普段から多職種と連携することを意識していたので、DWATが他チームとの**連携の潤滑油**になれるよう、意識をして取り組みました。

特にJRAT等、DWATと活動内容が近い医療チームとは**こまめに情報共有**を行い、一緒に活動することを意識しました。

介入前後での様子や変化があればお互いに報告し合い、関係性の構築を意識しました。



普段の業務やスキルを活かして



ケアマネジャーの仕事をしています。

今回、チームリーダーを任されました。全体ミーティングでは、他団体にDWATの動きが伝わるように、積極的に発言して情報を共有しました。

その結果、他のチームからも「一緒に動きましょう」や、「このケースはどうしたらいいでしょうか」と相談されることも増え、活動しやすくなりました。

普段から多職種と連携した仕事をしているので、特に工夫をすることはなく、いつもどおり支援することができました。

施設の相談員として仕事をしています。

避難者と関わる中で、困りごとを抱えている人は潜在的に多くいると感じました。とくに、本人は支援を必要と感じていないケースが多々あると感じました。

災害時は関われる時間も限られているので、今後は日頃の関わりの中で相手を知ることができるように、**観察力を高めて**いきたいと思いました。



DWATチーム内での情報共有



- DWAT事務所(避難所2F)に配置したホワイトボードを活用
- 1日の活動スケジュールや、要配慮者情報を掲示し、支援状況を可視化

地域の福祉サービスと連携

避難所に避難している利用者情報

No.	氏名	生年月日	要介護度	住所	担当ケアマネ（事業所名・氏名）	備考
1	17歳	昭和30年 月 日	要介護 1	大分市大字佐賀関	居宅介護支援センターのぞみ	事業所番号一
2	0	昭和35年 月 日	要支援 1	大分市大字佐賀関	佐賀関・神崎地域包括支援センター	事業所番号一
3	*	昭和35年 月 日	要支援 1	大分市大字佐賀関	佐賀関・神崎地域包括支援センター	
4	6	昭和35年 月 日	要支援 1	大分市佐賀関	佐賀関・神崎地域包括支援センター	
5	11	昭和35年 月 日	要支援 2	大分市佐賀関	佐賀関・神崎地域包括支援センター	
6	11	昭和35年 月 日	要介護 1	大分市佐賀関	ケアセンターひまわり	事業所番号一
7	27歳	昭和35年 月 日	要支援 1	大分市佐賀関	Greenガーデンさかのせき居宅	事業所番号一
8	17歳	昭和35年 月 日	要介護 1	大分市佐賀関	Greenガーデンさかのせき居宅	
9	17歳	昭和35年 月 日	要支援 1	大分市佐賀関	Greenガーデンさかのせき居宅	
10	27歳	昭和35年 月 日	要介護 1	大分市佐賀関	Greenガーデンさかのせき居宅	
11	27歳	昭和35年 月 日	要介護 2	大分市佐賀関	Greenガーデンさかのせき居宅	
12						
13						
14						
15						

③ 17歳... (佐賀関HP) 2週1回の通所利用。水曜日。2年程通っている。

チーム員(ケアマネ)のつながりで地元包括及び居宅介護支援事業所と連絡を取り、避難所に避難をしている利用者の介護情報等を取り寄せ、平時の福祉サービスへのつながりや介護等級変更等を行った。

課題とこれからに向けて



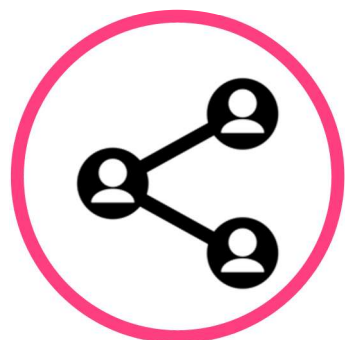
ロジが担える人材育成

今回は事務局が常駐できたが、広域災害の場合は厳しい。
チームマネジメントや他チームとの連携、活動調整等のロジ業務が担える
チーム員の育成が必要。



派遣調整について

1週間後の派遣について施設内で人員調整をするのは厳しい。
空振りでもいいから、1か月単位でまとめて派遣調整を依頼し、クールと
組めるようにするのがよい。



情報共有ツールについて

保健師からの情報は口頭伝達が多く、保健医療福祉チームで共通のアセスメントシート等はなく、情報共有が難しかった。
キントーンやLINEWORKSを活用し、引継ぎも含めた情報共有ができる
仕組みづくりが必要。